

ダムの風だより



国土交通省 大町ダム

”大町ダム管理所”の近況をお知らせする広報誌です！

大町ダム完成まで

建設されてから35年間、高瀬川の水環境の維持に努めてきた大町ダムですが、どのように建設されたのか今回ご紹介します。



完成当初の大町ダム



ジブクレーン工法

建設中の大町ダム

建設中の大町ダム

大町ダム建設について

大町ダムの工事には景観を重視し、地山をいれず、かつ、仮設スペースが十分に確保できる「ジブクレーン工法」が採用されました。また、ダムの形式には、地形・地質上における安全性を重視し、「重力式コンクリートダム」が選択され、昭和42年より予備調査が進められ、およそ20年の歳月をかけて昭和61年に完成しました。

大町ダム建設促進は44災が契機

大町ダムの誕生を語る上で忘れてならないのが、昭和44年8月の高瀬渓谷流域の大洪水です。この洪水では、被害家屋234軒、浸水した水田234ha、被害総額22億円となる大災害となり、更には夏休みとかさなったこともあり、約1000人が孤立しました。これを契機に大町ダムの建設が促進されました。



昭和42年	大町ダム予備調査開始
昭和44年 8月	高瀬川の源流部で大雨が降り、葛温泉の旅館3件が流され、500人が孤立。下流でも床上浸水家屋836戸の被害。
昭和47年 5月	大町ダム調査事務所 開設
昭和49年 4月	大町ダム工事事務所 改称
昭和54年 8月	ダム本体コンクリート打設 開始
昭和58年 11月	ダム本体コンクリート打設 完了
昭和61年 3月	大町ダム建設事業 完了
昭和61年 4月	大町ダム管理所 移行

コンジェットゲートの修繕工事を行っています！

ゲート修繕 大町ダムの主ゲートであるコンジェットゲートが老朽化の影響で現在、修繕工事を行っています。修繕工事ではゲートの塗装及び操作の際に動作するモータやローラを修繕しており、ゲート操作の際に正常に動作するように修繕を行っています。

コンジェットゲートとは？ 大町ダムの2番目に大きなゲートです。最大放流量は555m³/sで、学校の25mプールが1秒で1.2杯貯まるほどの水を放流できます。主に台風や大雨が降った際に開くゲートです。



ゲート設備の点検



コンジェットゲートからの放流

洪水期に備え準備完了！

大町ダムでは、雨の日が多く洪水が発生しやすい6月1日から9月30日の期間を「洪水期」と定めています。

R1年6月5日

水位：879.3m

1 洪水調節容量の確保

洪水調節は大町ダムの仕事の中でも特に重要な仕事の一つです。台風や大雨の時に、大町ダムで一定量を貯められるよう貯水水位を下げて備えています。大町ダムの洪水調節容量（2000万 m^3 ）には木崎湖と同じくらいの量を貯めることができます。

R1年10月31日

水位：899.5m

2 設備の点検整備

ダムとしての機能を正常に発揮するためには各施設の状態把握が重要です。そこで、施設を定期的に点検することで、異変や劣化具合を把握しています。洪水気前には詳細に各部を点検し、実際に同載するか確認します。また、関係機器とのデータの送受信が正常に行われているかどうかを確認する点検を実施しています。



機械設備の点検

3 訓練の実施

ダム操作時だけでなく模擬的に大雨が来たことを想定して洪水対応演習などの訓練を洪水期前に実施し、放流開始前の河川パトロールからゲート操作し、放流するまでの流れを地方整備局全体で行っています。訓練を行う事で実際に操作する際にも迅速に対応出来るよう訓練しています。



春の田植えに向けて、大町ダムから270万 m^3 を放流しました！

大北地域は4月26日から5月10日の間にかんがい取水のピークを迎えます。しかし、今年は雪解けが遅れてかんがいに必要な水が山から流れて出ませんでした。

そこで、4月26日から5月10日までの期間、大町ダムで貯めた水を放流してかんがいに必要な水量を確保しました。



大町ダム 代かき期 確保流量

	期間	確保流量
代かき期	4/16～4/20	8.59
	4/21～4/25	11.14
	4/26～5/10	17.67
普通期	5/11～8/10	13.71



洪水から地域の人々の生命や財産を守り、ふるさとの大切な水資源を活かすことが大町ダムの使命です。ダムに関するご意見やご要望もお待ちしております。

国土交通省 北陸地方整備局 大町ダム管理所

〒398-0001 長野県大町市平字ナロラ大クポ2112-71
 TEL. 0261-22-4511(代) FAX. 0261-22-4512 <http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/>